～人口減少地域を支える集落支援員の育成に向けて～

令和4年度地域政策研究センター　地域協働研究【ステージⅠ】 採択課題

課題名：人口減少地域における自治会の地域運営組織化と集落支援員の活動育成に関する研究
研究代表者：総合政策学部　准教授　役重眞喜子　　研究分担者：同　准教授　三好純矢
課題提案者：西和賀町
研究メンバー：西和賀町ふるさと振興課長　真壁一男　同特命主幹　高橋 勉
技術キーワード：地域運営組織、集落支援員、人材育成

▼研究の概要

人口減少と高齢化が急速に進む西和賀町をフィールドに、集落の枠を超えて連携する地域運営組織化を視野に入れた集落支援員の活動成果と課題を明らかにするとともに、支援員の育成プログラムの検討を行った。

▼研究の方法

1.行政担当者及び集落支援員のヒアリング調査

2.集落活動への参与観察と意見交換会の開催

3.各集落の行政連絡員へのアンケート調査

①集落支援員への期待（活動前）②集落支援員の活動に対する評価（活動後）を把握、比較

【結果１】ヒアリング調査

実施時期：2022年4月
実施方法：対面による聴き取り＠西和賀町

支援員	活動目標及び課題と感じること
A（男性、町出身、Uターン）	・外に出て地元の良さがわかったのでITスキルを活かした地域情報の発信が目標 ・魅力の発信の方法が課題と思っている
B（男性、妻が町出身、Uターン）	・子育てには良い環境と思っている、子どもたちに生まれた地域が楽しいと教えたい ・そのためにはまず自分の足で地域を歩き、地域に溶け込むことが課題である
C（女性、町外出身、Iターン）	・地域おこし協力隊やNPOの経験を生かし、子どもの居場所づくりをしたい ・仕事盛りの30代、40代のつながりをどう作っていくかが課題
D（女性、夫が町出身、Uターン）	・子育てに専念し地域のことを知らないままきたので、まずは地域とのつながりを作りたい ・地域住民をよく知り、自分のことも知ってもらうことが当面の課題
E（女性、町出身、Iターン）	・学校現場の支援に携わった経緯から、子ども目線のまちづくりが目標 ・子どもが少なくどう活動を具体化していいかわからないことが課題
F（女性、町外出身、結婚に伴い移住）	・手工芸をやる人が多いので織物・染物などを地域でやれたらいい ・子どもに地域の魅力を伝えるために、子育てサロンなどのノウハウが課題

▼おわりに

コロナ禍での支援員の活動は所期の計画通りに実施できなかったこともあり、育成プログラムの具体化は今後の課題として引き続き研究を行っていきます。このたびの調査にご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

【結果2】集落活動への参与と意見交換

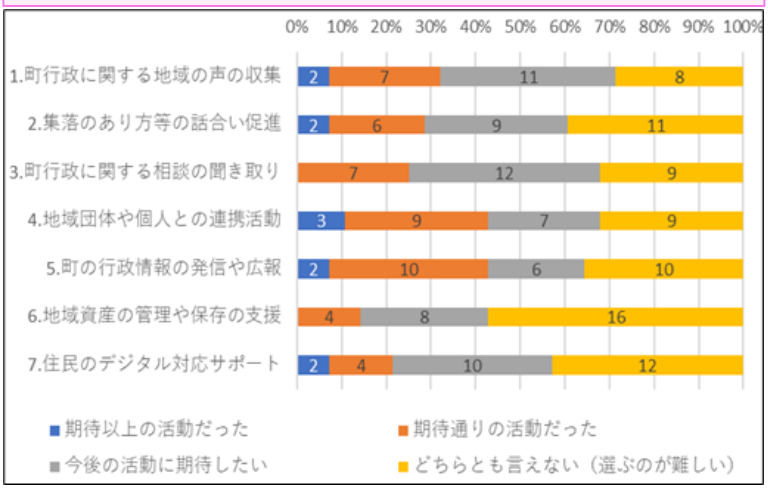
実施時期：2022年8月、10月
実施方法：小繋沢集落の特産品栽培と収穫作業に参加し、学生を交えた地域住民、支援員との意見交換会を実施

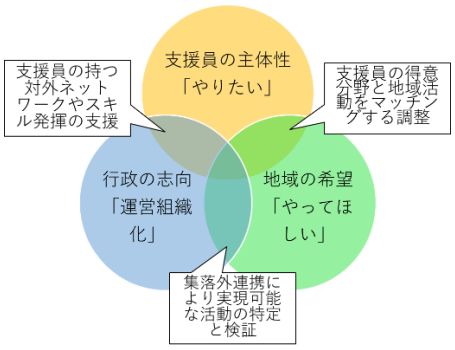
主体	集落支援員の活動について	地域運営組織について
自治会役員	地域運営のキーマンの右腕としての活動を期待	必要性は理解するが行政も努力の姿勢が必要
地域住民	地域行事に顔を出してくれることだけでもありがたい	各集落の独自の取組みもあり時間がかかる
集落支援員	各戸訪問の際にどこまで何を聞いていいか迷う	若い親世代は学区のつながりも生きると思う
学生	支援員がいることで若者も地域に入りやすくなる	集落同士の活動の一体化や交流が大切では

【写真】学生参加による現地参与観察と意見交換会

【結果3】行政連絡員へのアンケート調査

実施時期：2022年4月、2023年3月
実施方法：連絡員会議において配付、後日回収



▼研究の成果

以上の結果をふまえ、支援員・行政・地域の3者の期待と活動の方向を合一させていくため、行政のコーディネート機能の充実と育成カリキュラムの連動が課題である。